

会報 No.19

前 林 協

MAERINKYO

***** 編集・発行所 *****

〒371-0035

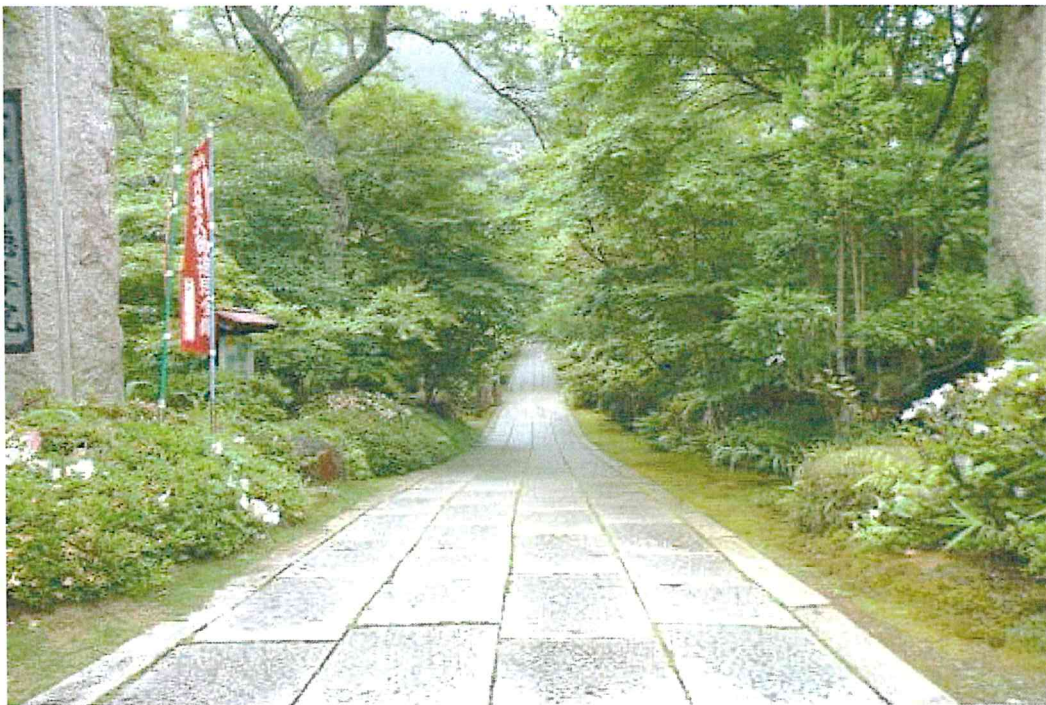
群馬県前橋市岩神町四丁目17番3号

前橋国有林森林整備協会

TEL:027(235)5150 FAX:027(235)5147

URL:<http://www.maerinkyo5150.com/>

E-mail:maerin5150@yahoo.co.jp



棚倉町山本不動尊参道

◆ 記事の内容 ◆

- 労働災害撲滅を願い安全祈願祭
- 前林協第18回通常総会の概要
- 事業体の安全（衛生）大会の概要
- 林材業 STOP！ 熱中症
- 協会の行事予定等



労働災害の撲滅を願い！

安全祈願祭

平成29年度前橋国有林森林整備協会の安全祈願祭が全国安全週間の準備期間に当たる6月16日（金）前橋市総社町の上野総社神社において、高山会長ほか会員事業体が出席し、厳粛のうちに執り行われ、労働災害の撲滅を期するとともに、ゼロ災の達成を祈願しました。

平成28年度における労働災害発生は無くゼロ災を継続しており、各事業体では、関係機関と連携を密にし、労働災害の未然防止に向けた積極的な取り組みを行っている結果であります。

さて、林業・木材製造業労働災害防止協会において、策定する「林材業労働災害防止計画」の第12次労働災害防止計画（平成25年から平成29年度）最終年度に向けた取り組みでは、林材業における死亡労働災害を平成29年において36人（林業31人、木材製造業5人）を下回ることに、死傷災害者数を平成24年と比較して15%以上減少させることを目標に掲げて、積極的な安全衛生活動を展開してきたところであります。計画4年目の平成28年度末現在において、林材業死亡労働災害件数が50人（林業41人、木材製造業9人）に達しており、目標値の達成は厳しい状況となっております。このため、過去における死亡労働災害を分析し、「的確な指導」と「確実な遵守」を全員が自覚し、災害の未然防止に努めることとしております。



第18回 通常総会の概要

平成29年度第18回通常総会は、会員、事務局員、ご来賓など約45名の出席のもとで、前橋市石倉町「ホテルサンダーソン」で開催されました。総会には、漆原関東森林管理局長、川端全国国有林造林生産業連絡協議会専務理事にご出席いただきました。

総会は、平子副会長が開会の言葉を述べたあと、高山会長が開会に当たって挨拶を行いました。続いて、漆原関東森林管理局長及び川端全国国有林造林生産業連絡協議会専務理事からもそれぞれご祝辞を頂きました。

議長には、吾妻森林整備株式会社の谷口営業部長を議長に選出して進められました。

まず、第1号議案「平成28年度事業活動報告」、第2号議案「平成28年度収支決算報告」承認の件について、目黒専務理事から説明があり、続いて水野代表監事から監査報告が行われ、この件は承認されました。

続いて、第3号議案「平成29年度事業活動計画」、第4号議案「平成29年度収支予算」、第5号議案「平成29年度会費等徴収方法」、第6号議案「預入先決定」、第7号議案「旅費支給規定の改正」の件について目黒専務理事から説明提案され、全会一致で承認されました。第8号議案「その他」については、特段の提起はなく、谷口議長は会議の終了を宣言して降壇しました。

その後、富沢副会長が開会のことばを述べ、盛会裡に総会は修了しました。

休憩を挟んで、農林漁業信用基金の坂田林業部長、本間情報分析担当官及び関東森林管理局石橋森林整備部長、生方森林整備課長、山之内資源活用課長、森田企画官にご出席を頂き業務説明や安全指導をして頂きました。

挨拶

前橋国有林森林整備協会

会長 高山光男



本日は大変お忙しいところ、前林協第18回通常総会に遠路にも係わらず多数のご出席を頂き有り難うございます。

さて、ご案内のとおり、いよいよ国産材を活用する時代となり、会員事業体の皆様は今後、益々忙しくなるものと思っております。しかし、地域林業の主な担い手となる山村の人達は、過疎化・高齢化が進み、担い手を確保するのが大変な状況となっております。そのため、事業量を安定的に確保し、通年雇用が出来るよう、作業種の組合わせ発注や伐採・造林事業の一貫作業システムなどの拡充に向けて、一層取り組んで参りたいと考えております。また、林業の機械化が進み、低コスト化や高い技術力が求められ、今や生産体制の充実を図ることが喫緊の課題となっておりますが、林業の成長産業化に向けて、林業の現場がより安全で、若い人達に魅力的な職場となるよう引き続き労働災害の未然防止に積極的に取り組んでいただくようお願い致します。

結びに、総会の円滑な議事進行にご協力をお願いし、開会に当たつての挨拶と致します。

祝辞

関東森林管理局

局長 漆原勝彦



本日は、前橋国有林森林整備協会第18回通常総会がこのように大変多くの皆様方のご出席のもと、盛大に開催されますこと心よりお慶び申し上げます。

前橋国有林森林整備協会並びに会員の皆様方には、日頃より国有林における造林・素材生産等各種事業の的確な実施にご尽力をいただいているところでございます。また、国有林野事業の概ね全般にわたりました、格別なご理解ご協力をいただいております。ところでございまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

改めて申し上げますまでもなく、先人達のたゆまぬ努力により育まれて参りました我が国の人工林資源、今、真に本格的な利用期を迎えております。平成27年度の木材需給率88.2%ということと5年連続で上昇しております。この流れをより力強いものとしていくことが現在の喫緊の課題であります。昨年5月に閣議決定をされました森林林業基本計画において、10年後の国有林の供給量を現状の1.7倍に拡大することを目標に掲げています。その目標実現に向けまして、国産材の安定供給体制の構築、新たな木材需

要の創出、これを車の両輪として各般の施策を総合的に講じて行くこととしております。

関東森林管理局におきましても、森林の多面的機能の維持向上を図るため森林の整備・保全・治山対策を着実に推進するとともに、林業・木材産業の成長産業化や地方創生に積極的に貢献するための取組を進めているところであります。その一環として国有林における施業方法を大きく見直しているところであります。間伐については、原則、列状間伐で行う。高性能林業機械やコンテナ苗を活用した伐採・造林の一貫作業システムを導入するといった取組を本日ご出席の皆様方の大変なご協力を頂きながら行っているところであります。一貫作業システムにつきましては、昨年度は管内4署で実施したところでございますが、皆様方からのご要望も踏まえまして、今年度は複数年契約も活用しながら、管内全域に拡大して実施することとしております。大きな社会問題となつております野生鳥獣被害対策にも力を入れております。関東森林管理局では昨年からシカの捕獲事業を強化しているところであります。各地域の実情や関係者の皆様方と密接に連携しながら更に対策を強化して参ります。花粉発生源対策も必要な取組課題であります。伐採跡地にスギを植栽する際は、花粉症対策苗木にするなど花粉の少ない森林づくりを進めております。

東日本大震災から6年が経過を致しますが、福島県の森林・林業・木材産業の再生に向けて取り組むべき課題が数多く残さ

れております。関東森林管理局におきましても、関係各方面との密接な連携の下で、森林・林業・木材産業の一日も早い再生に引き続き全力で取り組んで参ります。避難指示の解除の状況も踏まえながら、国有林における森林整備を再開いたしますとともに、里山再生の取組、海岸防災林の復興再生、国有林の除染等を進めて参ります。

労働災害の未然防止も重要な課題であります。関東森林管理局関係の請負事業、立木販売箇所における休業4日以上の労働災害は昨年度は8件発生し、前年度を大きく上回る件数となったところであります。前橋国有林森林整備協会の会員の皆様方の関係では、平成27年度以降は発生していないと承知しておりますが、引き続き労働災害の未然防止に万全を期して頂きますようによろしくお願い致します。

今年是全国版の森林環境税の創設に向けた長い歴史の中で、真に正念場の年であります。その実現の為に、国民各層の幅広いご理解が不可欠であります。本日、お集まりの皆様方におかれましても、力強い取組を頂きますようにご期待を申し上げる次第であります。

結びに、前橋国有林森林整備協会並びに会員各位の益々のご発展、本日お集まりの皆様方のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。御祝いの言葉とさせていただきます。本日はおめでとついでございます。

全国国有林造林生産業連絡協議会

専務理事 川端省三



本日は平成29年度第18回通常総会が開催されましたこと誠にありがとうございます。

日頃から前林協会員の皆様は積極的な取組をされておられ、私ども本部にも大変ご理解を頂いておりますことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

私どもの素材生産業・造林業の成長産業化を実現して行く中においては、川上である森林所有者、川中の素材等流通業者や川下の製材業者(工場)となりますが、私どもは川中から川上に近いところで作業をしておりますので、やはり成熟した森林資源を循環して、継続的に国産材を供給しながら、木材・木材産業・森林を回転させながらやることが成長産業化に繋がることだと思っております。その中で、一番「鍵」を握っていると言われているのは、私ども川中から川上を担当する素材生産者と造林事業者というところでございます。循環させるには、川上・川中・川下がそれぞれの段階で再生産可能な利益を生まないといけないということだと思っております。私どもの取組は、全体的な流れの中では、中間的な位置にあり、非常に期待されているところであります。具体的にはそれぞれの段階で、川下では、製品を高く売る努力をしてもらって、丸太を高く買ってもらう。川中では、それぞれの取組での生産性を向上させ

て利益を生んで森林所有者に再生産可能な利益を還元する。川上の森林所有者の方々は、それらに添えて頂いて、再造林に意欲的に取り組んで頂くといったことが無ければ循環林業が成り立たない訳でございますので、それぞれがそれぞれの段階で努力していくことだと思っております。

林野庁では今、低コスト化或いは生産性向上に取り組んでおりますが、それは事業者の利益を増やし、それを安全対策や雇用者の条件改善などで川上の方に還元していくということだと思っております。そうした点においても、私どもは積極的に取り組んで行かなければならないと感じておりますので、会員の皆様にもそういった取組をご理解頂きたいと考えております。ただ、そうした取組を行うには、利益が上がっていかなければならぬわけで、ただ数値が良ければ良いといった進め方だけではありません。それぞれの事業者が企業努力の下で報われるような取組を進めるべきだと思っております。具体的には、それぞれの森林管理局で進められておりますが、私どもの本部としては、林野庁に対してこれらの取組に積極的な努力をしてもらえる企業が報われるようなやり方で進めてくれるよう強く申し出を行っているところであります。林野庁と意見交換して行く中で、本末転倒とならないように事業者の方が改善出来て、しっかりと実践できるように本部で取り組んで参りたいと考えております。それともう一つは、そうした期待に添えていくには、やはり中・長期的な事業量があつて、先の事業が計画的に見えてこないという雇用を確保し、人材育成などにも取り組めないこと

になります。また、事業の受発注の関係になります。現在、競争入札が基本で総合評価或いは企画競争で進められておりますが、雇用の確保、人材育成、安全対策をしっかりとやっていくには、地域の事業者が安心してそれぞれの事業に取り組めるような受発注制度にしていかなければならないと考えており、5月には林野庁担当者との意見交換を行い、今の実態等を話し、それぞれの立場で検討願っているところでもあります。具体的には、発注の中期見通しをもう少しオープンに出来ないか、単発の発注ではなく、なるべく複数種の作業を組み合わせた通年型発注ができないか、また、前橋・東京・名古屋・長野地域では、ダンピングみたいな低入札が多く見受けられるので、低価格対策をやつて頂かないと事業者の存続にもかかる問題となっているなど。総合評価は、ご存知のとおり技術点と評価点を組み合わせで行われておりますが、価格で逆転されるようなことではなく、技術点と評価点のウイエトの見直しを行うなど検討して頂きたいと要望しているところでもあります。その結論はまだ、出てはおりませんが、林野庁と定期的に意見交換しながら皆様方にも多く喜んでもらえるような改善をしていきたいと思っておりますので、少しでも多く、皆様方から実態を教えて頂きながら業務を進めて行きたいと思っております。

終わりに、前林協の益々の発展と会員皆様方のご発展とご健勝を祈念もうしあげましてご挨拶に替えさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動 未来へつなげよう安全文化



奥久慈林業協同組合安全大会

理事長 菊地 正人



皆さん改めましておはようございます。平成29年度奥久慈林業協同組合安全大会の開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

本日はこのように多くの組合員の皆様方のご参加を頂きまして盛大に本大会を開会ではまずことに心より感謝申し上げます。また、棚倉森林管理署様をはじめご来賓の皆様方におかれましては公私共に大変ご多忙な中、ご臨席を賜り、ご指導いただきましたことに厚くお礼申し上げます。更に、関係機関の皆様方にも日頃より当組合の事業全般にわたりまして、ご指導、ご協力を頂いており、お陰様をもちまして当組合も順調に運営することが出来ておりますことに重ねて御礼申し上げます。次第でございます。

皆様も既にご承知のとおり来月7月1日から7月7日までの1週間が「全国安全週間」となっており、特に、林業に対しましては7月1日から7月31日まで「林業労働災害防止月間」となっており、これは林業労働災害防止協会が、平成25年から29年度までに労働災害をゼロにすることを目標に、我々のような林業を営む事業者及び労働者の安全意識を

高め、労働災害を防止するために設けられたものであります。この背景には林業での労働災害が他産業と比べて圧倒的に多いという実態があります。

全国安全週間は昭和3年に初めて実施されて以来、人命尊重という崇高な理念のもと、産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ることを目的に一度も中断することなく続けられ、今年で90回目を迎えます。当組合といたしましても、これを契機として毎年安全大会を実施して労働災害防止のため、安全意識の高揚を図って参りました。また、一層の安全推進を図るため、安全防護服、安全防護ブーツを全組合に支給するなど安全対策を徹底し、昨年度も労働災害ゼロを達成することが出来ました。このような取り組みの結果、本日現在、組合員の皆様方のご協力により連続無災害千六百日を継続しているところでございます。組合員の皆様におかれましては、本大会を契機に今一度、安全意識の高揚を図りまして、本年度も無事故・無災害を継続して行けるよう安全衛生部会を先頭に組合員一丸となつて取り組んで頂きますようお願い致します。その取り組みの一つとして、本日は棚倉森林管理署様、白河労働基準監督署様、前橋国有林森林整備協会様より安全に関する講話を、また、棚倉消防署様から応急手当及び処置の方法について講話を頂くことになっておりますので、真摯な気持ちで聴講をして頂きたいと思致します。また、今年の入口ガンは全国安全週間が「組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動 未来へつなげよう安全文化」、国有林野事業スローガンは

「もう少し」はやる気持ちに潜む危険 余裕を持って安全作業」、林業労働安全スローガンが「予知の目で 早めに摘み取る 危険の芽」となっており、安全に関する取り組みが全国あらゆる事業体で展開されることになっております。組合員の皆様方には、本大会がもう一度基本に立ち返る機会となり、労働安全衛生が推進し、徹底されることを改めて期待致します。今回、安全大会を開催するに当たり、皆様方から安全標語を募集したところ百四作品の応募があり、その中から審査の上、十二作品を入賞作品として選定させて頂きました。多くの作品はいずれも甲乙付けがたく、安全意識の高さを感じさせるものばかりであり、その中から特に優秀な作品を選考いたしましたので、後ほど発表したいと思致します。

本日は長時間になると思いますが、最後まで積極的に参加し、労働災害防止の重要性について、認識を更に深め、誰もが安心して働くことができる「安全で快適な職場環境づくり」に努められますよう「お願い申し上げます。私の開会に当たつての挨拶とさせて頂きます。本日は最後までよろしくお願致します。

【安全標語入賞作品】

急いでいる 慣れてる 再確認
真名畑林業(有) 鈴木敏彦
身につけよう 基本動作とプロ意識
みんな築こう 安全職場
(有)ウツド福生 小峰初広

慣れた時ほど 一息入れて リフレッシュ
(有)田部林業 鈴木篤

危険箇所 すぐみんなに改善 安全職場話し合い
(有)本郷林業 矢吹聖

注意する勇氣と 素直に聞く心
育つ職場に 事故は無し
(有)スズキ木材 西牧博司

心にも しっかりと着せよう 防護服
気持ちを整えよう さあ仕事!
(有)ウツド福生 田名部恭央

早くやるより確実に 焦らず 安全作業
慌てず 焦らず 安全作業
真名畑林業(有) 鴨志田裕也

注意一瞬 ケガ一生 安全作業
手間を惜しまず 安全作業
(有)東白林業 木村基

これくらい 緩む心に 潜む事故
(有)陣野林業 生田目拓実

過信と油断が(命取り) 常に意識は安全作業
(有)ウツド福生 曲山涼平

空前絶後の安全作業 超絶怒濤の安全職場
(有)東白林業 千葉慎吾

ハツとした 経験活かして 危険予知
プロなら当然 安全作業
(有)スズキ木材 小沼昌宏

いしかわ林業協同組合
有限会社 大須賀林業 安全衛生大会
白栄林業企業組合

理事長 水野 武雄



頂き有り難うございます。

さて、7月1日から厚生労働省及び中央労働災害防止協会の主唱により一週間は『全国安全週間』となっております。全国各地で色々な行事が開催されておりますが、その一環として本日の開催に至っております。また、この事業体により安全衛生大会を数年にわたって実施しておりますが、お陰様で一人ひとりの現場の皆様方のご協力とご理解によりまして、一つの事故やケガもなくやって来られたことにつきまして衷心より厚く御礼申し上げます。

各事業体では、国有林の仕事を中心に行っておりますが、仕事の本身は変わりませんが、最近では急傾斜地での仕事が多く、作業環境など、色々な影響を受けることが非常に多く大変になってきたように感じておりますが、そんな中でも災害が起きないことは、皆様方の殆どが熟練者であり、経験豊かな皆様方ではないのかと思っております。しかし、前橋国有林森林整備協会からの災害速報でも明らか

なとおり、今日では熟練者の方が油断して災害を起こすことが多くなってきたております。6月にも2件、同じ同僚の中から災害が発生しております。私たち事業体としては、利益を上げることも大切ですが、やはり労働者の安全を守ることの義務が最も大切でありますので、一に安全、二に安全、更に、三にも安全をお願い致します。

先程、皆様方が作られた安全標語を拝見致しましたが、「慌てず ゆっくり もう一度 左右確認」という標語がありました。これが全くその通りであります。

これから、雨天や猛暑、ハチ刺されなど危険な中での下刈作業となり、皆様方には大変ご苦労をお掛けしますが、この時期最も心配することは『熱中症』であります。湿度も高く、体温又は脳温の上昇に伴って、めまい、悪心、頭痛、痙攣などの熱中症を疑う症状が見られたら、重傷にならないように直ぐ涼しい環境へ避難し、水分補給・脱衣・冷却をして頂きたいと思えます。もう一つはハチ刺されです。7月20日頃になるとハチの数が多くなり活動が活発になる時期でもありますので、刈払い機の音に反応して刺されることも多くなりますので、刺された時はその場から離れ、区域を表示し明確にしておくようお願い致します。

本日の安全衛生大会を契機として、また一年、無事故・無災害で行きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。また、本日は緊急時の実施訓練も予定されておりますので、最後までよろしくお願い申し上げます。

安全標語入選作品

金賞

安全を守る動作が
災害なくす
(有)水野林興 水野 源治

銀賞

慣れた時ほどミスは出る
初心に戻って基本動作
白栄林業企業組合 満山 克美

銅賞

焦ってやっても進まない
早くやるより安全に
白栄林業企業組合 東城 百合子





磐城林業協同組合 安全大会

理事長 平子 作 磨



皆様おはようございます。地拵・植付が終わって下刈作業が真っ最中の会社が殆どだと思いますが、今日は安全大会ということでご出席を頂き有り難うございます。また、ご来賓の方々にも公務が多忙に拘わらずご臨席賜り、厚くお礼申し上げます。

東日本大震災から6年4カ月、復興はまだまだというふうに感じております。今日も被災地の方から出席いただいた会員もございいます。復興途中ではありませんが、一部地域の国有林において、木材生産、森林整備事業が本年度から始まります。国有林を主に作業現場にしている当組合にとっては、非常に大きな一歩であると考えており、小林磐城森林管理署長はじめ関係者の皆様方に改めて御礼申し上げます。有り難うございました。今後ともご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。また、来年福島県で全国植樹祭が計画され、その事業後継者会議がいわき市で開催されます、その実行委員長を依頼されておりますので、皆様方のご協力をお願い申し上げます。さて、7月1日から一週間を全国安全週間とその前を準備期間ということは、皆様方がご承知だと思えます。全国、全職場で労働安全を確保するための様々な取り組みが行われておりま

す。全国安全週間実施要綱における林業の労働災害防止対策の実施事項として、①チェーンソーを用いた伐木及び造材作業における保護具、防護衣等の着用並びに適切な作業方法の実施 ②木材伐出機械等を使用する作業における安全の確保となっております。各組合員におかれましては、毎朝のミーティング、リスクアセスメントなど日頃から同じような内容で労働災害防止に向けて取り組まれていることと思います。全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、戦時中も休み無く実施され、今年で90回を迎えます。この長年の取り組みによって、労働災害は長期的には減少しています。平成28年の労働災害については、年間の死亡者数は2年連続千人を下回る見込みですが、しかしながら休業4日以上の死傷災害が前年より増加しています。一方、林業においては、休業4日以上の死傷災害は減少傾向にあります。死亡災害が前年の38件から41件となり、非常に残念な結果となっております。災害の内容を見ると前年同様、かかり木の不適切な処理や伐倒方向が変わって激突されるなど全体の6〜7割が伐木作業中の災害が多く発生している現状であり、伐木作業に係る災害をゼロにすれば死亡災害は無くなるのではないのでしょうか。

最近では、高性能林業機械のフォワーダなどの災害も非常に増えております。こうした中、労働災害を防止するための今年の安全スローガン『組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動 未来へつなげよう安全文化』と事業主から安全担当者、労働者まで全員が安全基準や作業手順など基本的ルールを確認・共有し、安全に対する意識や危険感受性を高めていくことが、労働者の安全を確保し、労働災害ゼロに繋がって行くことだと思います。また、林野庁スローガン『もう少し』はやる気持ちに潜む危険 余裕を持って安全作業』とありますが、人間は焦るとミスを犯しやすくなります。焦ったときこそ安全な作業に心掛けるようにお願い致します。

福島県内では、平成28年林業において休業4日以上災害が45件発生し、平成27年の24件に対して21件増加し、非常に憂慮すべき状況となっておりますが、当組合としては、今年もゼロ災を継続しております。皆さんの安全の取り組みが立派であると思っております。これからもゼロ災を継続し、国産材の安定供給、森林整備の低コスト化に向けて邁進し、森林の持つ多面的機能の維持に少しでも貢献できるように考えておりますのでご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。また、今日の安全大会を機に改めて皆さんでどうすればゼロ災が続くのか、引き続き危険ゼロを目指して安全第一で作業に取り組んで頂きたいと思っております。

最後に今大会の成果が、今後の当組合及び関係機関の発展に大いに寄与することを祈念し挨拶と致します。

林 材 業 STOP! “熱 中 症”

対策1



暑さを避ける

- ・屋内作業では
 - ・扇風機等による適度な通風や冷房で温度を調節
 - ・遮断カーテン、すだれ、打ち水を利用
- ・屋外作業では
 - ・日陰を利用して、こまめな休息
 - ・発見が送れるため、1人作業は避ける
- ・からだの蓄熱を避けるため
 - ・通気性の良い、吸湿性、速乾性のある衣服を着用
 - ・汗を吸収した下着はこまめに交換
 - ・氷、冷たいおしぼり、シャワー等でからだを冷やす

対策2



こまめに水分補給する

屋内作業、屋外作業でも、のどの渇きをかんじなくても、こまめに水分、塩分、経口補水液※などを補給する。

※水に食塩とブドウ糖を溶かしたもの

対策3



作業を実施する上での留意事項

- 作業開始前に体調確認
睡眠不足、体調不良、前日の多量の飲酒、当日の朝食の未摂取等をチェックし、必要に応じ作業の配置換えを実施
- 熱中症に影響する疾病 ※医師等の意見を踏まえて就業場所の変更、作業の転換
①糖尿病 ②高血圧 ③心疾患 ④腎不全 ⑤精神・神経関係の疾患
⑥広範囲の皮膚疾患 ⑦感冒等 ⑧下痢など
- 高齢者に対する注意
65歳以上の高齢者は、暑さや水分不足に対する感覚機能が低下しており、暑さに対するからだの調節機能も低下しているため注意が必要
- 熱への順化
熱への順化（7日以上かけて熱への暴露時間を長くする）に配慮
熱への暴露時間が中断すると、4日後には順化の顕著な喪失が始まる
- 緊急連絡可能地域の確認
林業現場では、作業箇所が変わるたびに、緊急時の連絡ができるよう携帯電話等の通話可能区域を確認
- WGBT値（暑さの指数）の把握
屋外や輻射熱がある作業場所は、黒球の付いた日本工業規格に適合した測定器を使用し、WGBT値（暑さの指数）を随時把握して作業時間の短縮等を実施

協会の主な動き

- 5月18日 磐城林業協同組合第19回通常総会（いわき市）
- 5月20日 第71回群馬県植樹祭（神流町）
- 5月24日 前営懇研修会（前橋市）
- 5月25日 全造生協第18回定期総会（東京都）
- 5月26日 奥久慈林業協同組合第18回通常総会（棚倉町）
- 5月28日 第44回沼田森林業通常総会（沼田市）
- 5月29日 第68回全国植樹祭（富山県）
- 5月31日 第36回大間々林業通常総会（みどり市）
- 6月2日 前林協第1回理事会（前橋市）
- 6月16日 第27回群馬県林業技士会通常総会（前橋市）
- 6月22日 前林協安全祈願祭（前橋市）
- 6月27日 社会保険事務講習会（伊勢崎市）
- 7月3日 奥久慈林業協同組合安全大会（棚倉町）
- 7月4日 いしかわ林業協同組合・有限会社大須賀林業
- 7月5日 白栄林業企業組合合同安全衛生大会（石川町）
- 7月5日 磐城林業協同組合安全大会（いわき市）
- 7月5日 事業体安全指導（村上市）

今後の予定

- 10月19日 全造生協第1回理事会（東京都）
- 10月20日 予算措置等要請活動（林野庁等）
- 11月7日 前林協第2回理事会（前橋市）
- 平成30年
- 1月12日 森林林業中央研修会（東京都）
- 1月18日 前林協情報交換会（前橋市）
- 2月22日 全国造生協第2回理事会（東京都）

人事異動

- ▽林野庁（七月一〇日付け）
 - 林野庁長官 沖修司
 - 林野庁次長 元政
 - 林野庁国有林野部業務課長 牧行
- ▽会員事業体
 - 沼田森林業協同組合 事務局長 樋口一雄
 - 大間々林業協同組合 専務理事 塩生勝則
- ▽退会
 - 白河地方林業協同組合 理事長 出田鶴一

編集後記

今年の夏は、全国的に気温が平年並みか平年より高くなることが見込まれています。梅雨が明けると夏本番を迎え、山での下刈り作業も本格化しますが、蜂の行動も活発になり、蜂刺されに注意が必要となります。また、高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻して発症する熱中症にも注意が必要となります。自身の安全作業に留意しつつ、同僚の疲労度にも気を配りながら夏場の安全衛生管理をしっかりと行い、厳しい夏場を乗り切って頂きたいと思えます。

更に、夏の到来に伴い、気になってくるのは、集中豪雨や落雷などの天気の急な変化です。特に最近では、ゲリラ豪雨とも呼ばれる記録的大雨が頻発し、極めて短時間の間に土砂災害が発生し深刻な被害をもたらしています。林道の走行等には十分注意し、防衛運転を心掛けましょう。